



南谷戸大わらじ 掛け替え・奉納

日時：令和6年4月28日（日）10時30分～

場所：南江山 萬松寺、下倉田交番裏

主催：南谷戸和楽路会

- 4月28日の炎天下の中、交通安全などを願い、3年に1度行われる下倉田町の「南谷戸大わらじ掛け替え・奉納」が行われた。大正2、3年頃に始まったと言われ、110数年にわたって受け継がれてきた大わらじは地域住民が「集う場」「つながり」「絆」として続いてきたことになり、下倉田地区の誇りである。南谷戸和楽路会の根本会長は「高齢化により担い手不足で継承が難しくなってきたが、詳細な手順書を更新している。また七夕祭り、そうめん流しなど親子が集まるような行事を開催し、次の世代に関心を持たせ、大わらじ作りに参加する機会を持たせるなどして継承できるようにしたい」と今後の抱負を語った。南谷戸和楽路会の会員でデザイン書道家として活躍されている久木田ヒロノブ氏の「書」が希望する参加者にプレゼントされ注目を集めた。













横浜市地域有形民俗文化財

みなみやと

南谷戸のおおわらじ

平成五年十一月一日 登録

所有者 南谷戸和楽路会

「南谷戸おおわらじ」は、大正初期に土地の青年達が農業に従事する傍ら、副業に藁加工を奨励したのがきっかけとなり、南谷戸の象徴としておおわらじを製作し、松の木に吊したのが初めだといえます。

昭和三〇年頃には、松の木が枯れてしまったため、傍らの白檀の古木に替え、さらに、現在は鉄の枠形に編み込んで吊しています。

その、おおわらじの規格は、全長三・五メートル、幅一・五メートル、重量二〇〇キログラムを測ります。

家内安全、五穀豊饒を願って作られたおおわらじも、戦時中は武運長久、戦後は交通安全を祈願するなど時代を反映しながら伝えられ、市内でも大変珍しい行事の一つです。なお、現在のおおわらじは、南谷戸和楽路会の手により三年毎に作り替えられ、大切に保存されています。

平成六年三月

横浜市教育委員会